

ごらくハマ寄席 (第420回・県民ホール寄席)

2000年6月の初登場以来、  
幾度も笑い感動を届けてくれた喬太郎師匠  
「県民ホール寄席」最後の独演会、お見逃しなく！

# 柳家 喬太郎 独演会

2023年

11月20日 [月] 18時30分開演  
(18時開場)

[会場] 県民 (小) ホール

[入場料] 税込指定3000円 (一般¥3500)

[チケット取り扱い所]

- ・チケットかながわ ☎0570-015-415
- ・ローソンチケット ☎<https://l-tike.com> (Lコード/32574)

チケットの予約・問い合わせは

**ごらく茶屋**

(平日の10:00~17:00)

☎045(242)5697 へ

何度聴いても尽きない満足度  
喜びと驚きと楽しさ満載の高座

もしも、あなたが柳家喬太郎の落語にまだ出会っていないのなら、それは幸せなことかもしれない。なぜなら、喬太郎落語を初めて聴く衝撃を今から味わえるのだから。客席に座つたら喬太郎の言葉に身を任せるだけでよい。古典か

## 柳家喬太郎

やなぎやきよたろう

ら新作まで高座にかける囃しのカバー範囲が広いので、客層や季節や世相に合わせて、そのときの最良の演目を選んでくれる。滑稽噺は徹底的に笑わせてくれるし、人情噺はあくまでも優しく心に届けてくれる。喬太郎の落語に心を奪われた聴衆は老若男女を問わず増え続けていて、

笑顔、まるで登場人物が憑依しているかのような表現に驚くばかりだ。

長年埋もれていて今は誰も演らなくなった古典演目にも新しい命を与えている。『縁切復』、『錦の舞衣』など落語中興の祖・三遊亭圓朝作品をはじめ、『擬宝珠』、『緋医者』、『茶代』といった噺を速記本などを手がかりに復活させてい



主任を務める寄席や独演会はいつも大盛況だ。

二〇一九年十一月に下北沢・ズメナリで行われた落語家生活三十周年記念落語会『ザ・きよんズメ30』は、ファンからの祝福や初めて聴く人の喜びに満ち、一か月間三十公演すべてが満員御礼の快挙だった。

なぜ喬太郎の落語はこんなに満足感があるのだろう。それは、古典にしても新作にしても、落語の真髄にある楽しさを徹底的に追求しているからだろう。その根底に落語への求道的な愛すら感じる。

古典落語は、『おせつ徳三郎』『ちりとてちん』『うとんや』など季節を感じる名作を実に味わい深く演じるし、『井戸の茶碗』『竹の水仙』『寝床』のように人物造形の面白さでぐいぐいと物語に巻き込む演目も強烈に面白い。『心眼』『双蝶々』のようなシリアスな噺のときにみせる緊張感ある鋭い眼光、『御座』『禁酒番屋』のような楽しい噺のときの底抜けに明るい

る。いずれも喬太郎ならではの逸品で希少価値も高い。

改作も数多く、なんと古典落語とウルトラマンを合成した奇想天外な爆笑噺も複数ある。

新作落語も確実に聴き手の心を捉えている。おじいちゃんの恋心を可愛らしく描く『ハワイの雪』、父と息子の少年時代がオーバーラップする『八月下旬』、都市伝説の思ひ出話から優しい真実にたどり着く『路地裏の伝説』など、どれも魅惑的だ。代表作『ハンバーグができるまで』は舞台化もされ大好評を博した。文芸作品の落語化にも挑戦し、小泉八雲原作『重陽』、江戸川乱歩原作『赤いへや』などを完成させている。

SWA(創作話芸アソシエーション)二四ページ)での作品群も含め、新演目は落語界の遺産として確実に蓄積されている。

汲めど尽きない想像力の泉が、きつと喬太郎のなかにある。その湧き水を飲める喜びたるや。

(馬場慧)